

## 第2回金沢大学子どものこころサミット

### ご挨拶

本日は、「第2回金沢大学子どものこころサミット」にお招き頂き、ありがとうございます。  
金沢大学を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、金沢大学における“子どものこころ”の研究関連グループと文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラムの共催で、多くの皆様の御協力によりこのような新しい試みの研究会が、昨年に続き第2回目が開催されたことを心よりお喜び申し上げます。文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課長里見朋香課長にご来賓を賜り、また昨年と同様、大学関係者、市民、企業、行政など多くの皆様にお忙しい中お集まりいただきましたこと、心よりお礼を申しあげます。

皆様ご承知のとおり、“子どものこころの医学”が最近国内外において世論の大きな関心を得ております。深刻な少子化・人口減少問題や、最近の疫学研究で自閉症関連疾患の生涯有病率が実に人口の1-2%程度にまで急激に増加していることなどの理由から、子どものこころの問題は、今や21世紀の我が国および国際社会における重要課題の一つと言っても過言ではありません。最近この流れを受けて、国連が4月2日を世界自閉症啓発日として制定し、厚労省が11月をわが国の児童虐待防止推進月間に指定した、と伺っております。

皆様既に御承知かと思いますが、金沢大学は全国の大学に先駆けてこの問題に真剣に取り組んでおります。つまりこれまでの実績として、神経科学が専門の東田陽博教授が中心となつての21世紀 COE プログラムと子どものこころの発達研究センター、教育学が専門の大井学教授が中心となつての大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学・小児発達学研究科連合大学院と JST・RISTEX 研究プロジェクト、哲学が専門の柴田正良教授が中心となつての JSPS 若手研究者大航海プログラム、そして精神医学が専門の三邊義雄教授が中心となつてのほくりく健康創造クラスタープロジェクト、などの大型プロジェクトでございます。さらに本年度新たに、金沢大学子どものこころの発達研究

センターの一般財源化が内定するとともに、文部科学省による国家基幹研究開発推進制度・脳科学研究戦略推進プログラムの委託を受け、先にお名前が挙げた東田陽博教授や児童精神医学が専門の棟居俊夫教授らが中心となり、金沢大学が我が国における4か所の発達障害研究拠点のひとつとして、先端的研究を担うことになりました。特に金沢大学には、オキシトシンの臨床応用研究を中心とした神経内分泌学的研究が期待されていると、伺っております。

これまでの金沢大学の取り組みの最大の特徴は、倫理・教育・福祉などの人文科学の分野から、生物学・医学・工学などの自然科学までの幅広い文理融合の協力体制を基礎として研究を深め、高度専門職の人材育成、産学協同事業、市民参加の啓蒙活動を展開してきたことでもあります。さらに連合大学院制度などを通して、志を同じくする他の4大学との教育・研究の連携強化を進めております。このような金沢大学の学内外においての“子どものころ”をキーワードとして連携協力体制は、その内容以上に、今後の国立大学の在り方を先取する機構改革の新しい試みとして注目されていると自負する次第でございます。

最後に、この機会に皆様には何とか時間をお作り頂き、古都金沢の風情とともに、平成21年に完成したばかりのこの附属病院新外来診療棟をお楽しみ頂くとともに、総合移転をほぼ終えた角間キャンパスにも足をお運びいただければと存じます。

このサミットを機会に、金沢大学の“子どものころ”への取り組みが益々発展していくことを願って、私のご挨拶とさせていただきます。

平成24年3月16日

金沢大学長 中村 信一